

## 1. コンセプト

- ・若年層や訪日外国人など伝統芸能の知識が少ない層をメインターゲットと捉え、アミューズメントパーク的に伝統芸能を紹介する。芸能の詳細な解説にこだわるよりは、再現舞台に上がれたり、楽器に触れたり、衣裳を間近で見られたり、と「体験」することにより各芸能の理解を深め、身近に感じてもらうことを目的とする。
- ・固定的な展示とするのではなく、社会の動向や来場者の意見・ニーズ、反応・評価等を踏まえ、常に改善・更新を図ることで、いつ来ても新しい発見・学びや楽しみがある展示を展開する。
- ・雅楽、能楽、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎、組踊、日本舞踊、邦楽、民俗芸能、大衆芸能を主な対象分野とし、各芸能を構成する要素すべてを展示対象の範囲とする。

## 2. 展示企画例

一例として、以下のような展示が考えられる。実際の展示は事業者の提案に委ねる。

### (1) 展示内容

#### ① 導入

企画内容に合わせた映像やトークショー等により、グランドロビーを通る人の興味を引き展示へ誘導。

#### ② 再現舞台

実際に国立劇場の舞台で使用した大道具を中心に、衣裳を着けたマネキンや小道具、楽器、プロジェクションマッピングなどを使い、臨場感のある舞台を再現。

#### ③ 資料展示

衣裳、小道具、楽器、浮世絵、台本、記録映像、記録写真などの実物やレプリカを展示しつつ、素材を生かしたデジタルコンテンツなどにより、視覚的かつ直感的に理解できる展示。

#### ④ 体験型展示

実演に対する親近感を高めるため、レプリカやバーチャルリアリティーを活用した、見る・聴く・触るなどの体験が可能な体験型展示。

### (2) 主な備品・設備

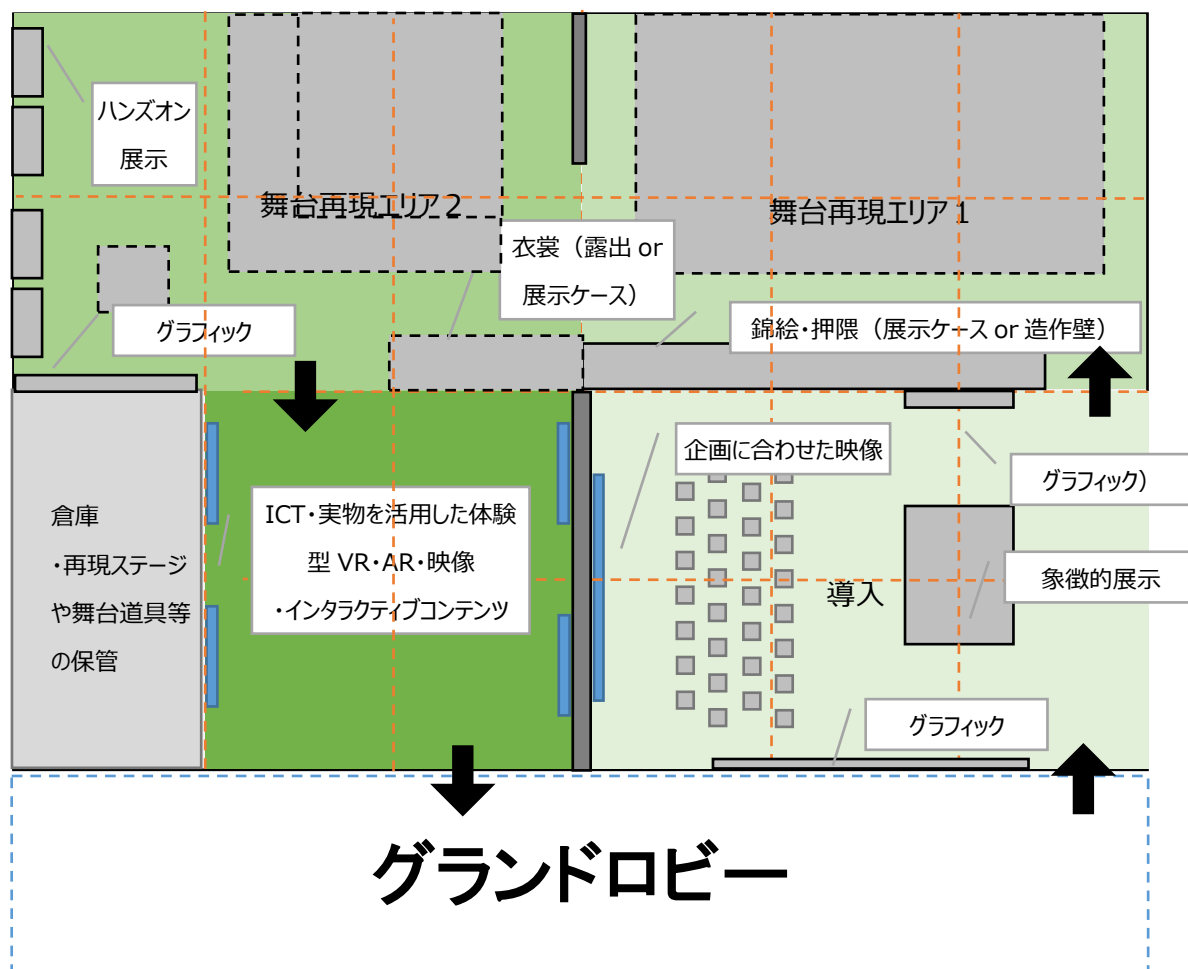
- ・展示造作（展示台・演示具・グラフィック）
- ・映像音響機器
- ・展示照明
- ・舞台大道具（実際の公演で使用したものを流用）

- ・展示ケース（壁面ケース、覗きケース）
- ・サイネージ、サイン類
- ・入場ゲート

### (3) イメージ

グランドロビーと物理的に区切る必要はあるが、グランドロビーから部分的に視認できるようにし、通りがかりの人の興味を引くようにする。

図 16-1



### 3. 留意点

- ・乳幼児やその家族、障害者及び付添いの方、車いす利用者、高齢者、外国人など多様な利用者を考慮して、ユニバーサルデザインに配慮する。(点字や外国語の表記、レシーバーやスマートフォン・アプリケーションによる解説など)。
- ・内容は振興会と打合せを適宜行い決定すること。なお、企画運営において、振興会の有する知見やネットワークなど協力できることは支援を惜しまない。(職員

の企画検討会議等への参加、所蔵資料・映像等の貸出し、展示物配置等の確認、キャプションのチェックなど)

・運営において定期的に展示更新を行うことを予定しているため、更新性を高める工夫を行う。